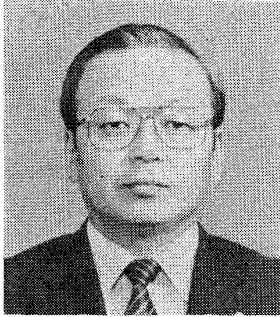


## 渡辺義介記念賞

新日本製鐵(株)鋼管事業部副事業部長  
合 田 照 夫 君

## シームレス鋼管製造技術の発展向上



君は、昭和 30 年 3 月、北海道大学工学部冶金工学科を卒業後、直ちに八幡製鐵(株)に入社、東京製造所技術課長、本社鋼管技術部特殊管技術課長、同部副部長、八幡製鐵所シームレス鋼管部長、本社鋼管技術部長を歴任、昭和60年6月より本社鋼管事業部副事業部長に就任し現在に至つて

いる。

この間、昭和 43 年、当社唯一のシームレス鋼管ミルである東京製造所小径管ミルの製造技術を担当、製管用丸素材の抜本的な品質改善につとめた。この間、穿孔機プラグの水冷化、プラグの自動交換化、精整作業のオンライン化等の技術開発を進め、小径シームレス鋼管製造用のプラグミルとしては、世界的にも例を見ない高品質、高能率のミルとして完成させた。

昭和 47 年より検討を開始した中径シームレス鋼管ミルの計画立案にあたっては、連続铸造角鋼片の直接使用を可能とするプレスロール穿孔法を初め、高品質を指向した中径新製管圧延プロセス、圧延頭熱を利用した直接焼入れ並びに連続式誘導加熱による新熱処理法、仕掛品の自動処理システム、オンラインコンピューターコントロールシステム等、各種の世界最新技術の確立とこれらを駆使した画期的ミルの実現に尽力した。

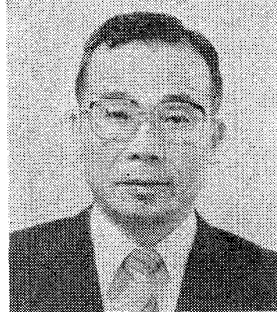
昭和 54 年以降は、自らシームレス鋼管部長として、当ミル操業にあたり、短期日のうちに月産5万トン体制の確立をはかると共に、導入新技術の安定化とレベルアップをなし遂げた。昭和 58 年稼動を開始した八幡小径シームレス鋼管ミルの建設計画にあつても、中径ミルで完成した新技術の積極的導入をはかり、世界最新鋭ミルとしてこれを実現せしめた。

また、ユーザーニーズに対応して、極低温、耐圧潰、耐サワー等の優れた高級油井管新製品の開発を積極的に推進し、これらを完成、更に、昭和 58 年、本社鋼管技術部長就任以降は、かねてより自ら開発を手がけ推進してきた、高性能な油井管用プレミアムジョイントをはじめ、高級電縫油井管、高級ラインパイプ等の開発に指導的役割を果たした。

## 渡辺義介記念賞

日立金属(株)安来工場技術部長  
鈴 木 充 君

## 高級特殊鋼製造技術の進歩発展



君は、昭和 32 年早稲田大学第一理工学部金属工学科を卒業後、志村化工株式会社を経由し、昭和 37 年日立金属株式会社に入社、安来工場において高級特殊鋼の製造、特に製造設備の近代化、合理化に努め、各種新製品開発の推進に尽力した。氏は昭和48年磨鋼工場長、昭和 57 年生

産技術部長、昭和 58 年技術部長を歴任し、今日に至つている。

1. 昭和 40 年より磨棒鋼製造設備の合理化、近代化を推進し、エンジンバルブ材、ミニチュアベアリング材、航空機用フラスナー材 (Ti 合金) など極めて高品質を要求される材料の製造技術を確立した。これらは国内はもとより海外にも広く輸出されている。

2. 高速度工具鋼、合金工具鋼、耐熱合金などの難加工材の細線、平線製造技術確立に努力し、特殊温間伸線技術により能率化、品質向上に成功、小径ドリル、タップ材、ミニチュアボールベアリング材、ピストンリング材、溶接鋸刃材、シガレットライター材、ジュメット線などの量産化に貢献した。

3. 技術輸出の分野でも早くからその重要性を説き、高級特殊鋼の製造時に磨棒鋼および磨線材の製造に関し、技術輸出を推進、自らプロジェクトマネージャーとしてその重責を果し、今日の技術輸出の先鞭をつけた。

4. 日立金属株式会社は不純物の少ない砂鉄系原鉄をベースに高級特殊鋼の生産を行なっているが、氏は 40 トン電気炉、炉外精錬設備を導入し、非金属介在物、ガスの少ない清浄鋼の製造に努力し、高品質の高級工具鋼量産化技術の確立に貢献した。

以上の如く、高級特殊鋼の製造技術の進歩、発展に尽力し、業界発展に顕著な貢献を行なってきた。